

流行ニュース：

## &lt;コレラ、ハイチ&gt;

2010年10月26日、ハイチの保健省が259例の死亡を含む3,342例のコレラ発生を報告した。南北でコレラ疑診例が調査され、首都ポルトープランスが位置している西部では5例が確定診断された。

現在のところ、隔離と処置の設備としてコレラ治療センターが12施設ある（Artiboniteに6施設、中部に1施設、ポルトープランスに5施設）。

保健当局は予防手段の重要性を説き、清潔な水の確保、個々人の衛生管理、食品の正しい取扱い、手洗い、空地で排便しないことなどを呼びかけている。

報告された死亡者のほとんどは病院外で死亡し、病院内での死亡者は半数未満である。WHO アメリカ地域事務所・全米保健機構（PAHO/AMRO）は死体の適切な処理補助の専門家をハイチへ動員している。

ドミニカ共和国ではコレラ発生は未だ報告されていないが、ハイチでの集団発生により、ドミニカ共和国政府は国境付近で緊急時対応策を実行に移すことを促している。PAHO はこれらの努力を他の国連機関やカナダと米国の保健当局と共に継続している。

最新情報は<http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs107/en/index.html>と

[http://new.paho.org/disasters/index.php?option=com\\_content&task=view&id=1423&Itemid=1](http://new.paho.org/disasters/index.php?option=com_content&task=view&id=1423&Itemid=1)で確認できる。

## &lt;コレラ、パキスタン&gt;

2010年10月12日、パキスタンの保健省は、9月30日の洪水以来、コレラ菌（*Vibrio cholera 01*型）感染による99症例を報告した。

パキスタンの保健省はWHO や地域や国際チームに綿密に働きかけ、コレラを含む感染症発生の防御、罹患者の治療を行っている。

詳細情報は<http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs107/en/index.html>と

<http://www.whopak.org/idps/index.asp> で確認できる。

## &lt;クリミア・コンゴ出血熱及びデング熱、パキスタン&gt;

2010年10月15日、パキスタンの保健省の国際保健規則政府窓口はクリミア・コンゴ出血熱について、3症例の死亡を含む26症例を報告した。加えて、パキスタンではこれまで15例の死亡を含む1,500例以上のデング熱症例が報告されていた。

クリミア・コンゴ出血熱とデング熱は共にパキスタンの風土病で発生件数には季節性があるが、最近、両感染症の発生率の上昇と地理的拡大がみられている。

## \*戦略：

パキスタン保健省は、クリミア・コンゴ出血熱とデング熱の予防対策を拡大しており、一般市民のために罹患の危険性や予防法を伝えるといった自覚を促すキャンペーンを行っている。また、出血熱患者の臨床治療と症例管理を強化し、適切な薬剤や個人用保護具の備蓄と媒介動物の駆除を行っている。

WHO は、重症デング熱の臨床管理や“国際的感染症対策ネットワーク（GOARN）”を通じた感染コントロールに専門家を動員し、資源の提供、疾病サーベイランスの強化、実験室診断や保健医療提供者の育成も行っている。

詳細情報は<http://www.who.int/csr/disease/dengue/en/index.html>と

[http://www.who.int/csr/disease/crimean\\_congoHF/en/index.html](http://www.who.int/csr/disease/crimean_congoHF/en/index.html) で確認できる。

今週の話題：

## &lt;2009年全世界ワクチン戦略更新&gt;

世界に普及されたワクチンは、世界中の人々の健康に莫大な貢献をし、毎年、何百万もの入院と小児の死を防いでいる。また、B型肝炎やヒトパピローマウイルス感染を予防し、将来の死亡数を減らしている。WHO が拡大予防接種計画（EPI）を開始した1974年の時点では、生後1年でBCGワクチン、ジフテリア・破傷風・百日咳三種混合ワクチン（DTP）、経口ポリオウイルスワクチン（OPV）、麻疹含有ワクチン（MCV）を完全に接種した小児は、世界中の小児の5%にも満たなかった。しかし1990年には、ほぼ80%の小児が生後1年でDTPワクチンを3回接種するにいたり、現在では、ワクチンで予防可能な疾病の死亡率と罹患率は減少している。1988年以来、ポリオ発生数は99%超減少し、近い将来地球上からの根絶が予想される。また、麻疹関連の死亡数は2000年から2008年にかけて78%減少した。インフルエンザB型ワクチン（Hib）、B型肝炎ワクチン、肺炎球菌ワクチン（PCV）、ロタウイルスワクチンは多くの国で定期予防接種として導入された。これらの成功にも関わらず、世界中でおおよそ2300万人の小児が未だに定期予防接種を受けていない。さらなる戦略として、これらの小児に予防接種を実施し、ワクチンで予防可能な疾病の死亡率と罹患率のさらなる減少を達成することが必要である。“地球

規模での予防接種実施に関する展望と戦略”は、2005年にWHOとUNICEFによって掲げられ、各国を援助し、より多くの人々にワクチンを接種するものである。2010年までの目標の一つとして、全地域におけるDTP3ワクチンの接種率80%以上、世界では90%としている。

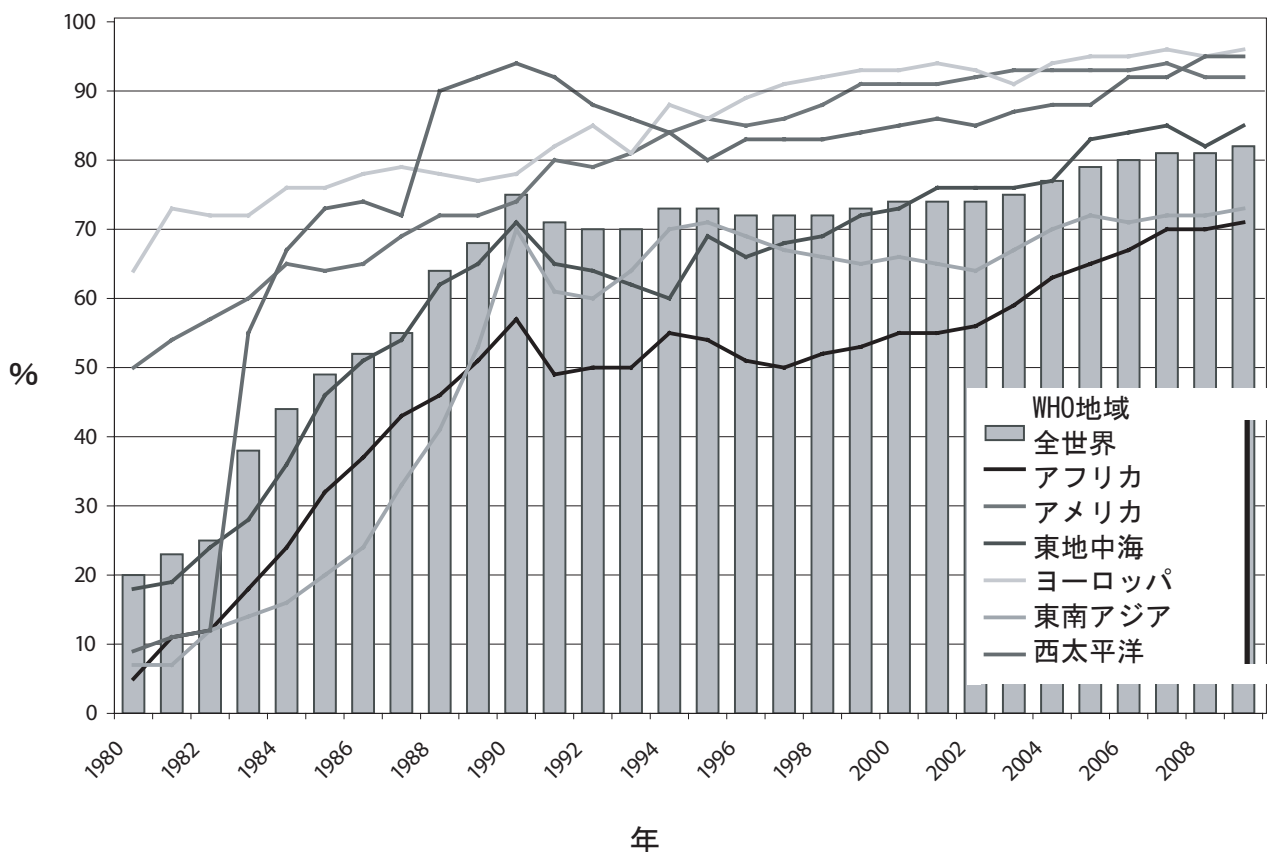
\* 接種率評価の方法：

定期予防接種の普及率は、標的人口ひいては予防接種人口の達成による予防接種計画の成功の指標であり、生後12から23カ月の間に推奨されるワクチンを予防接種された小児の百分率で評価する。多くの国では、予防接種率の管理データは、対象人口に接種されたドーズ数を推定される対象人口で割った数値で表される。接種率データは国レベルで集約分析され、毎年WHOとUNICEFに予防接種の共同報告書として報告され、193の加盟国に送られる。

\* 2009年の推定接種率：

2000年にDTP3ワクチンを受けた小児が1,460万人だったのに対し、2009年では推定1億710万人となった。この10年間に、DTP3ワクチンの推定接種率は2000年の74%から2009年の82%へ上昇した。地域別の接種率の上昇は、アフリカ16%、東地中海東12%、西太平洋10%であった(図1)。2009年には122カ国(63%)のDTP3ワクチン接種率は90%であったが、すべての地区で80%以上の接種率を報告したのは48カ国(25%)のみであった。この結果は、2015年までに目的を順調に達成できるのは低所得国の55%となる可能性を示す。2008年から2009年にかけてDTP3ワクチンの接種率が上昇したにも関わらず、53カ国(27%)のみしかDTP3ワクチン推定接種率の増加を報告しなかった。

図1：ジフテリア・破傷風・百日咳ワクチンを3回接種した世界および地域の推定接種率、WHO地域別、1980-2009年



新規ワクチンが広く接種可能になってきており、2009年までに児童予防接種の国家スケジュールに導入されたワクチンは、B型肝炎ウイルスワクチンは193加盟国のうち177カ国(92%)、Hibワクチンは160カ国(83%)、PCVワクチンは44カ国(23%)、ロタウイルスワクチンは22カ国(11%)であった。Hibワクチンが導入された国では、接種率はDTP3ワクチンと同様であったが、中国やインドといった大国では未だ導入できないため、世界の接種率には及ばなかった(図2)。

しかし、接種率の世界的増加の一方で、健康サービスへのアクセスの国家間格差が隠れる可能性がある。2009年に、生後1年までにDTP3ワクチンを受けていない幼児は推定2300万人超であったが、その70%が10カ国に住んでおり過半数がインドとナイジェリアである(図3)。推定接種率の世界的な増加があるにも関わらず、半数の国が2008年と2009年で変化なしと報告し、42カ国(22%)では減少して

いた。接種率が5%以上減少したのは、アンゴラ、クック諸島、エルサルバドル、モーリタニア、メキシコ、モルドバ、パラオ、ペルー、東ティモール、ツバルであった。減少した理由は様々で、新規ワクチン導入時の課題や、説明のつかない分母の変化や、少ない出生数が原因である小さな島国における接種率の変動を含む。149カ国（77%）が2007年から2009年の3年間DTP3ワクチン接種率80%以上を維持したが、36カ国（19%）は80%未満と推定され、6カ国（チャド、赤道ギニア共和国、ガボン、ナイジェリア、パラオ、ソマリア）では50%未満であった。

2009年に、DTP3ワクチン推定接種率の増加を報告した53カ国（27%）のうち、10カ国（ベネズエラ・ボリバル共和国、コートジボワール、パプアニューギニア、タジキスタンなど）は5%超の増加であった。これらの改善は、ワクチン供給問題の解決や定期予防接種の断続的な強化（PIRI）があげられる。投与されたドーズ数の誤りは、接種率の過大評価につながるかもしれない、推定接種率の立証の必要があるかもしれない。

図2：ワクチン種類別の世界の予防接種推定接種率、1980-2009年、図3：ジフテリア・破傷風・百日咳ワクチンの3回摂取を受けていない小児の数（百万）、国別、2009年（WER参照）

\* 編集ノート：

2009年は、これまでにない多くの小児がワクチンの恩恵を受けた。2004年は、麻疹、百日咳、破傷風に対するワクチンが5歳未満の幼児250万人の死を防ぎ、ポリオや黄熱を含めたワクチンで予防可能な疾病による身体障害からさらに数百万人を救ったと見積もられる。

しかしながら、予防接種接種率の地域格差は保健介入の格差を強調している。高所得地域でDTP3ワクチンの推定接種率が92%から96%であるのに対し、低所得地域では71%から73%にとどまっている。

たとえ“地球規模での予防接種実施に関する展望と戦略”の世界目標に達したとしても、すべての国で効果的な戦略を最優先して実行しなければならない。

（齊藤直輝、米田稔彦、宇佐美眞）

P. 441 Fig. 1

1980年から2009年にかけてWHO拠点により推計されたジフテリア・破傷風・百日咳三種混合ワクチン（DTP）を3ドーズ接種した世界及び地域における接種率の推移